教職員情報

2004年9月

▲写真1：マユタテアカネ

理学部附属 植物園のいきものたち

第16回

今回はアカトンボを紹介します。

写真1（上）：マユタテアカネ

植物園で最もよく見られるのはマユタテアカネ（写真1）である。名前の由来となっている額の眉斑が特徴の中型のアカトンボである。成熟したオスの腹部は真っ赤に色づくが、メスは茶褐色のままで赤くならない。同じくらいの大きさのアカトンボは他にマイコアカネが見られるが、これはマユタテアカネより数が少ない。マイコアカネには眉斑がないので マユタテアカネとの識別は容易である。

▲写真2：リスアカネ

写真2（下）：リスアカネ

マユタテアカネよりやや大型のアカトンボとしてはリスアカネ（写真2）がいる。翅の先端部が黒くなるのが特徴で、マユタテアカネのような眉斑はない。マユタテアカネのメスにも翅の先端部が黒くなるタイプ（ノシメ型）がい るので注意が必要である。リスアカネも赤く色づくのはオスだけでメスは赤くならない。名前の「リス」は栗鼠とは関係なくて、スイスのトンボ学者 F. Ris の名にちなんだものである。

（写真・解説　樋上正美）

第17回観察会レポート

先月に引き続き昼休みの開催となりました。雨の予報もありましたが、参加者は20名でした。前日の雨の影響で植物園内がほどよく湿り、たくさんのきのこが見られました。オニフスベ、アラゲキクラゲ、コフキサルノコシカケなど、参加者のみなさんに好評でした。この他にも園内にはたくさんのきのこが発生していました。さまざまな植物が、生きていたり枯れていたり多様な状態で存在していることや、直射日光があたる場所あたらない場所のいずれもが確保されていること、そういった好条件がそろい今のところ150種あまり確認されているそうです。近隣の吉田山のきのこが200を越えることを考えればもっとたくさん見つかるかもしれません。

ガイド：今村彰生（総合地球環境学研究所）